

第43回全国高等学校・中学校剣道（部活動）指導者研修会



実技研修の様子

第43回全国高等学校・中学校剣道（部活動）指導者研修会（主催＝日本武道館・全日本剣道連盟・全国高等学校体育連盟剣道専門部・日本中学校体育連盟剣道競技部、後援＝スポーツ庁・全国都道府県教育長協議会・全国市町村教育委員会連合会・千葉県教育委員会）は、1月4～6日の3日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センター及び国際武道大学で、特別講師・講師・助講師27名、参加者138名（高等学校83名・中学校55名）が集まって行われた。

本研修会は、高等学校及び中学校における部活動の理解を深め、剣道の専門的な知識と技術の充実を図り、もって指導者の資質向上に寄与する目的で開催された。

■1日目（1月4日）

開講式では、^{うすいひでお}白井日出男日本武道館理事長、^{ふじのやすらう}藤野泰郎全国高等学校体育連盟剣道専門部部长、^{くにはらのぶまさ}國原宣昌日本中学校体育連盟剣道競技部部长が主催者挨拶を、^{みずたしげのり}水田重則講師が講師代表挨拶をそれぞれ述べた。

開講式終了後、^{ほりとしつぐ}堀寿次特別講師より『PEP TALK～やる気を引き出す言葉の力～』と題して講演が行われた。PEP TALK（ペップトーク）とは、相手をやる気にさせるためのスキルとしてアメリカ

で生まれ、短く、分かりやすく、肯定的で、相手の魂を揺さぶる言葉掛けのことである。「選手がスポーツの技や体力を磨くように、指導者は言葉の力を磨く必要があり、大事な言葉を伝えられるかどうかで指導者の価値も変わってくる。思考は現実化するため、否定的な言葉ではなくポジティブな表現を用いて、相手にして欲しい行動を伝え、成功や勝利をイメージさせることが大事である」と述べた。また、肯定的に「できる」と思うか、否定的に「できない」と思うかで、結果に影響が出るオーリングテストには、参加者一同驚いていた。最後に、「言葉が変われば人生が変わっている。そして、ペップトークで最も重要なのは、生徒を大切に思う気持ちであり、今後の指導に役立てていただきたい」と結んだ。

その後、大道場で実技指導法を水田講師が行い、礼法、素振り、基本打ちを指導した。「指導者が正



教養講座（ペップトーク）：オーリングテスト

しい形を示範することが重要である」と述べた。

実技研修では、^{たにかつひこ}谷勝彦講師が切り返し、基本打ちを指導した後、回り稽古、講師が元立ちとなつての地稽古、最後に面の追い込み稽古を行った。地稽古では、①礼法をしっかりと行う②理合にかなった技を出す③稽古相手の良いところを見て褒め合い、見る目を養う、という3つの課題が提示され、参加者は稽古に励んだ。

■2日目（1月5日）

朝稽古の後、午前中はA班（八・七段）・B班（六段）は研修センター大道場、C班（五段 29歳以上）・D班（五段 28歳以下）は国際武道大学2号館、E班（四段以下）は同大学7号館へとそれぞれ分かれ、参加者のレベルに応じた「日本剣道形」と「木刀による剣道基本技稽古法」について、実技指導が行われた。



日本剣道形：水田講師による指導

午後は、はじめに水田講師が審判法の概要を説明し、高体連3班・中体連2班に分かれて審判法実習を行った。各講師が有効打突の見極めの他に、「合議のときは絶対にジェスチャーをしない」「主審は司令塔なので、メリハリのある動きをする」



審判法：中島博昭講師による指導

といった注意点が指摘された。また、「試合場の広さによって審判の立ち位置を変える」「個人戦で延長が続いた場合は、選手の疲労度に合わせた判定が必要」など、様々な場面を想定した動きや判断についても指導がなされた。

続いて、谷講師指導の元、実技研修が行われ、午後の部は終了した。

夕食後は高体連と中体連に分かれて研修が行われた。高体連は①全国大会における審判^{つば}鏝^{つば}競り合い改善の取組③部活動指導などについて報告、話し合いが行われた。中体連は、^{しももろすみたか}下諸純孝講師が自身の剣道経験に基づく講話を行った。

■3日目（1月6日）

2日目同様に朝稽古を行った後、^{ならたかし}奈良隆講師（全国高等学校体育連盟専務理事）が「運動部活動の今・今後～全国高体連の仕事を通してみえること～」と題して、全国高体連の概要、課題、運動部活動の周辺状況について講義を行った。全国高体連の課題である体罰について、体罰根絶全国共通ルールを作成するなどの対策を取っているにも関わらず発生件数が増加している背景として、体罰に関する意識の高まり、指導者を取り巻く状況の変化、情報拡散の速さと広さなどを挙げた。「厳しく鍛える、育てることと体罰は同一線上に存在しないという指導者の意識改革が必要である」と強調した。また、「部活動を取り巻く環境は少子化、教員の働き方改革などにより、厳しい状況である。しかし、部活動を通して、前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力など、社会人に必要な基礎力を養うことができるという部活動の意義、必要性をこれから積極的に発信していかなければならない」と述べた。

閉講式では、國原宣昌日本中学校体育連盟剣道競技部部長が修了証授与を、谷講師が講師講評を、^{つちざきゆういちろう}土崎祐一郎全国高等学校体育連盟剣道専門部副部長兼専門委員長が主催者挨拶を行い、全日程を終了した。